5.ジェンダー平等を実現しよう

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定

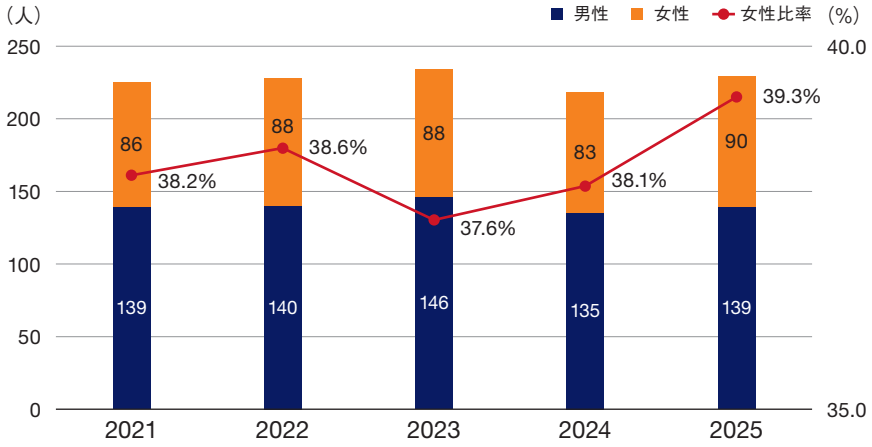
慶應義塾では、女性の職業生活における活躍をさらに推進するため、女性活躍推進法に基づき、2026年4月1日から2031年3月31日までの5年間を計画期間とする一般事業主行動計画を策定しました。本計画は、男性女性を問わずすべての教職員の雇用環境を整備し、誰もが能力を発揮しながら働き続けられる職場づくりを進めるものです。

本計画では、慶應義塾における課題として、仕事と育児・介護の両立支援制度のさらなる周知、長時間勤務による仕事と生活の両立への影響、教員部門における役職者の女性比率、職員部門における管理職の女性比率などを挙げています。

これらの課題に対し、女性役職者・管理職の比率向上を目標に掲げ、教員については各部門の役職者に一定数の女性が登用されることを目指すとともに、職員の管理職に占める女性比率は40%以上を目標としています。また、慶應義塾育児支援プログラム「KIDS」、介護支援プログラム「KIND」、悩みと仕事の両立支援プログラム「CARE」の周知・利用促進を通じて、仕事と家庭生活の両立を支える雇用環境の整備を進めます。

さらに、「女性のからだ支援～Breezeプロジェクト～」として、生理用ナプキン無料提供ディスペンサーの設置、生理用品の無償配付、女性休憩室や授乳・搾乳室の整備、専門医による相談室やからだセミナーの実施など、女性の健康課題に対応した環境整備と啓発活動を継続して実施していきます。制度利用に関するアンケート等を定期的に行い、利用状況や教職員のニーズを把握しながら、取組内容の改善につなげていきます。

職員の管理職に占める女性比率の推移



「協生ステーションarcoíris」開設

慶應義塾は、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）を尊重する環境を整え、一人ひとりが互いに助け合い、理解を深めながら協生社会を先導していくことを目指す「Pride Commitment」の一環として、2025年6月に「協生ステーションarcoíris（アルコイリス）」を開設しました。

「協生ステーションarcoíris」は、ジェンダー、セクシュアリティ、障害、人種、文化など、私たちの間に存在する様々な違いを“違い”ではなく、“個性”として尊重し、理解しあうことを目指す情報発信と交流の場です。学生および教職員が誰でも安心して利用できる安心・安全な空間として、静かに読書や勉強に集中したい時の利用のほか、話したいことや相談したいことがある時には、コーディネーターと対話することも可能です。

名称の「arcoíris」はスペイン語で「虹」を指し、希望や未来、多様性、架け橋といったポジティブな意味を持っています。異なる色が調和して一つの美しい虹を成すように、多様な個性が共に生き、響きあう社会の実現に向けて、「協生ステーションarcoíris」は、学生・教職員にとっての居場所となることを目指しています。

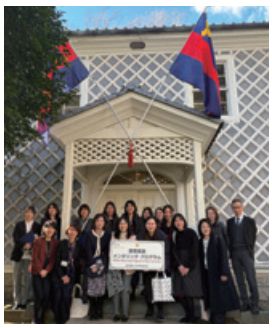
主な取り組みとして、ジェンダーやセクシュアリティ、生活、キャリア、就職・就労に関する個別相談を受け付け、相談者が安心して思いを話せる機会を提供しています。また、DEI推進の拠点として、学内の関連組織や各種相談窓口と連携し、全学的な支援体制の構築を進めています。さらに、誰もが安心して過ごせるキャンパスを目指し、学内の環境や制度のバリアフリー化を推進するとともに、「協生環境推進ウィーク」などを通じた啓発・情報発信、ワークショップや勉強会の開催にも取り組んでいます。

慶應義塾は、「協生ステーションarcoíris」を通じて、多様性を尊重する文化のさらなる醸成に努めていきます。


協生ステーションarcoíris


安心して過ごせるようにパーテーションで区切られたブース

職員メンタリング・プログラムの実施


職員メンタリング・プログラム修了式

2022年度より実施している「教員メンタリング・プログラム」の成果を踏まえ、2025年度秋に「職員」向けのメンタリング・プログラムを試行的に実施しました。

本プログラムは、慶應義塾も加盟しているAPRU（The Association of Pacific Rim Universities:環太平洋大学協会）の「Asia-Pacific Women in Leadership（APWiL） Mentoring Program」の特徴やノウハウを取り入れたものです。メンターとメンティーが双方に学び合い、教え合うことで、慶應義塾の草創期からの精神の一つである「半学半教」の実践を目指しています。

多様な部署や世代の職員が、メンター・メンティーとして対話を重ねたほか、他大学見学会などのワークショップを通じて交流を深め、お互いのキャリアや業務に対する視野を広げる契機となりました。

2026年度からは正式なプログラムとして始動する予定です。

「Girls Meet STEM at 慶應理工2025:女子中高生のためのキャンパスツアーと座談会」開催

2025年8月1日、理工学部は、女子中高生を対象としたキャンパスツアーおよび座談会「Girls Meet STEM at 慶應理工2025:女子中高生のためのキャンパスツアーと座談会」を矢上キャンパスで開催し、中高生と保護者あわせて41名が参加しました。

理工学部では「創発」を基本理念に、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）を重視した教育・研究環境づくりを進めています。本イベントは、理工系分野に関心を持つ女子生徒に最先端の環境とリアルなキャンパスライフを体感してもらい、将来の選択肢を広げることを目的に実施しています。

当日は、イノベーション施設「Yagami Innovation Laboratory（YIL）」や「共同実験室」、「量子コンピューティングセンター」、「マニュファクチュアリングセンター」などの見学を通じて、理工学部における最先端の研究・教育環境への理解を深めました。また、在学生との座談会では、研究や留学、サークル活動などに関する活発な質疑応答が行われ、参加者が理工系分野での学びや将来の進路に期待を膨らませる場となりました。


共同実験室の見学


座談会の様子

「協生環境推進ウィーク2025」開催

2025年11月28日～12月16日、「協生環境推進ウィーク2025」を開催しました。本企画は、慶應義塾における協生環境の実現に向けて、協生環境推進室が取り組む「ワーク・ライフ・バランス」、「バリアフリー」、「ダイバーシティ」、「コミュニティ・エンゲージメント」の4つの活動をテーマに、生徒・学生・教職員をはじめとする参加者が多様性への理解を深め、誰もが安心して学び、働き、生活できる環境づくりについて考える機会として実施したものです。期間中は、講演会やセミナーなど全6企画を開催しました。

11月28日の「ジェンダー・セクシュアリティ論公開講座」では、LGBTQA+の若者の調査から見えてきた課題を取り上げました。大規模調査を基に、いじめや孤立、社会的偏見がメンタルヘルスに及ぼす影響や、友人・仲間、居場所、性的マイノリティーを理解し支援するアライ（Ally）の活動、いじめ防止の仕組みといった「つながり」が若者のウェルビーイングを支える重要な力となることを共有しました。12月2日には、「“性”の多様性」をテーマに、多様な背景を有する人々が互いの尊厳を尊重し合う社会のあり方について学びを深めました。さらに12月5日には、肉乃小路ニクヨ氏を迎えたトークショーを開催し、自分の頭で考え、言葉にしながら自分らしい人生を築くことの大切さについて考える機会としました。

また、ワーク・ライフ・バランスの観点から、12月11日にKINDプログラム・介護セミナー「仕事と介護を両立させる秘訣～介護は突然やってくる、その時に慌てないために～」を開催し、介護の事前準備、介護保険サービスの利用法、仕事と介護を両立させるポイントなどについて専門家から学びました。12月12日開催のCAREセミナー「自己表現ができる!アサーションスキルを学ぼう」では、自分も相手も大切にするコミュニケーション手法や、心理的安全性のある職場づくり、人間関係の形成について理解を深めました。

最終日となる12月16日には、日本初のオストメイトモデルであり医師でもあるエマ・大辻・ピックルス氏による講演「アカペラを生きる～人工肛門と私の人生リスタート～」を開催し、難病との闘いやストーマ（人工肛門）造設の経験を伺いました。障害や疾病の有無にかかわらず、自分らしく生きること、多様な身体や生き方を尊重することの意義を考える機会となりました。


エマ・大辻・ピックルス氏講演